

利用者からみた下関文書館の現状と今後の課題について

中 村 睦 美

山口県では日本で最初の文書館として昭和34年4月、山口県立山口図書館から独立して山口県文書館が誕生した。^{*1} その経緯は山口県文書館のパンフレットによると、昭和27年(1952)、旧萩藩主毛利家から山口県へ萩藩の記録を中心とした毛利家文庫が寄託され、県立山口図書館で保管することになった。既に県立山口図書館には戦前の県史編纂所が収集した県庁文書もあり、併せて積極的な公開・利用が早急の課題となっていた。当時の図書館長鈴木賢祐氏が中心となって文書館設立に向けた活動が展開され、石川卓美氏を軸として山口県文書館が誕生した。「文書館ニュース1号」にはその「文書館法要項」も掲載されている。^{*2}

山口県文書館は開館以後も、徳山毛利家文庫や三浦家文書・山内家文書など多くの文書史料の寄贈・寄託が続き、また山口県の行政文書や行政資料の引継ぎも進み、現在では約44万点の文書・記録を収蔵してその保存・整理・公開を進めて、利用に供している。

山口県の一都市の下関市においても山口県文書館の誕生に刺激を受け、いち早く地方文書館施設の必要性を認識したが、独立した文書館の設立計画までには至らなかった。そのような折、下関市の明治百年記念事業の一環として、下関市立長府図書館の改築計画が持ち上がった。当時の長府図書館長中原雅夫氏や元下関市立豊浦小学校長堀哲三郎氏等が中心となって、長府図書館所蔵の長府毛利家文書、乃木文庫、明治維新関係のものや図書以外の軸物や地図等を、図書館から下関文書館に移管する形で昭和42年9月、旧長府図書館のレンガ造り書庫を利用して下関文書館が併設された。^{*3} 残念ながら設置条例等は制定されないまま誕生した。下関文書館の設立における経緯については、「文書館ニュース4号」「文書館ニュース11号」^{*4}に掲載されている。

地方文書館(市区町村)の中でも下関文書館は早い設立の事例である。その開館と同時に『郷土資料目録』の刊行を開始した。「文書館はすでに持っている資料の整理保存はいうまでもないが、新たに市関係資料の移管、個人所有資料の寄贈、寄託、購入などによって収集に努力し、広く利用者の活用にまちたい」とその序にある。^{*5}

下関文書館の発足と同時に刊行した『郷土資料目録』は、平成21年末までで13冊刊行されている。しかし昭和40年代に9冊を刊行した後、『郷土資料目録10』は昭和54年3月、『郷土資料目録11』は昭和60年3月、『郷土資料目録12』は平成12年3月、最新刊行の『郷土資料目録13』(長府藩諸家の文書が中心)は平成16年11月刊と、次第に少なくなった。また『郷土資料目録』とは別に「文書館の仕事が単に資料を集めるだけのことであつてはならない。あるいは、

一部の人だけの利用にとどまってはならない」⁶ という考え方に則って、平成 21 年 12 月末現在までに『史料叢書』が 32 冊刊行されている。しかし近年の行政文書に関しては目録には掲載されておらず、活用できる状況にまで至っていない。『史料叢書』も 32 は平成 20 年 8 月に刊行されたが⁷、その前の 30 は昭和 60 年 3 月刊⁸、31 は平成 4 年 3 月刊⁹ で、多くの利用者に提供するという当初の考え方から離れてきてしまった感がある。

上記に関連して言えることだが、いわゆる歴史史料としての古文書の収集・保存の業務は、下関文書館から下関市立長府博物館に移管されたが、残念ながら目録の刊行に至っていない。企画展等で所蔵文書の展示による紹介や図録は刊行されているが、所蔵している関係史料全てが網羅されているわけではない。いくつか所蔵史料の翻刻をしているものもある¹⁰ が、下関市立長府博物館がどういうものを所蔵しているのか判らないのが現状で、今後早く目録化されることが望まれる。

また文書館と博物館の違いは大きいものがある。原則的に博物館では原文書の閲覧が難しい。少なくとも文書館は手続きをすれば閲覧が可能である。図書館と文書館の住みわけよりも、原文書の閲覧という点に関しては、よりハードルが高い。なぜなら博物館の原文書を含む資料の調査・研究は学芸員が主体であるから。しかしこれからは『集めて、伝える』博物館の基本的な活動に加えて、市民とともに『資料を探究』し、知の楽しみも『分かちあう』博物館文化の創造へ¹¹ とすべく、対応して欲しい。「交流、市民参画・連携する学習支援機関としての」¹² 博物館として。勿論、利用者責任は、図書館でも文書館でも博物館でも負わなければならないものである。それにしても繰り返しになるが、下関のどの施設が何を所蔵しているかの情報開示は早急に必要である。

下関文書館は全国に先駆けて立ち上がったが、現在、下関文書館単独のインターネットのホームページもない。勿論、下関文書館の所蔵文書検索はできない。山口県文書館が『山口県文書館研究紀要』(36 号)までの論文タイトルや最新号(43 号)までの「文書館ニュース」が全て閲覧でき、所蔵文書の検索もキーワードや年代等のできるのに対して、あまりにも立ち遅れている。せめて下関文書館のホームページを立ち上げ、利用案内等の情報開示や所蔵文書の検索化を進め、利用者に供するようにしてほしい。文書の閲覧室も事務室内が現状である。

では下関市の一般の利用者はどこで調査するのかと言えば、私個人は山口県文書館に足を運び、インターネットや目録で検索したものを史料請求して閲覧し情報を得ている。疑問に対応してくれる専門職員が常時閲覧室にいたので進捗する。文書館の催事案内等のインターネットの更新も速やかになされているので、時々検索することで新たな発見もある。山口県文書館の閲覧室には古文書だけでなく、一般市民に向けての催事案内、例えばアーカイブズウィーク等の案内や資料小展示の解説を提供して、興味を持つように工夫されている。古文書の手引きとして、古文書講座も定期的に開催している。

昨年(2009)は山口県文書館 50 周年を迎えた記念行事も開催された。例年と違う「絵図を片手に街を歩こう」などのイベントは、一般市民に文書館を知らしめるために工夫された行事の一

つであろうし、有意義であったと思う。自分たちが暮らしている地域でも知らないことが多い。下関文書館でも身近に感じることでできる様々な催事を開催するならば、スケジュールが許す限り参加したいと思う市民も多いのではないだろうか。

下関文書館は日本の市区町村文書館の中でいち早く開館したが、今回のレポート作成で私ははじめて利用した。下関市立長府図書館としては何度も利用してきたが、下関文書館にはどのような閲覧手続きが必要なのかも判らなかつた。なによりどんな文書が所蔵されているかを、今回『郷土資料目録』を手にするまで知らなかつた。例えばヘレンケラーに萩焼を贈呈したという記述^{※12}もあり、興味深かつた。生涯学習の一環としても、公用から公共へ、もっと積極的に活用されるように整備するならば、多くの発見があり、利用も広がるはずである。

下関文書館は山口県文書館との交流や連携による職員の研修等を進め、開かれた文書館となつてほしい。微力であるが、私でできることがあるならば協力も参加もしたいと考えている。

このレポートは国文学研究資料館開催の平成21年度アーカイブズ・カレッジ（短期コース）に提出したものに多少手をいれたものである。アーカイブズ・カレッジに参加することで多くのものを得ることができた。今後を活かしたいと思っている。^{※13}

最後に参考資料として『郷土資料目録』の目次を掲載する。

- ※1 山口県文書館 山口市後河原150-1
- ※2 「文書館ニュース1号」 山口県文書館 昭和41年5月10日発行
- ※3 下関文書館 下関市長府宮の内町1-30
- ※4 「文書館ニュース4号」 山口県文書館 昭和44年2月15日発行
「文書館ニュース11号」 山口県文書館 昭和52年1月発行
- ※5 『郷土資料目録』 下関文書館 昭和42年9月発行
- ※6 『御当家御役人前帳 史料叢書2』下関図書館 昭和46年10月発行
- ※7 『長府藩士中川好古『招魂帖』復刻と読解 史料叢書32』下関市立長府図書館
下関文書館 平成20年8月発行
- ※8 『長府藩御馬廻通熊谷家文書 史料叢書30』下関文書館 昭和63年3月発行
- ※9 『雲海家文書—下関盲僧史料— 史料叢書31』下関市立長府図書館 下関文書館 平成4年3月発行
- ※10 『白石家文書』昭和43年3月20日刊・『白石家文書・補遺』平成元年3月31日刊 下関市教育委員会発行
『下関市史資料編Ⅲ』平成6年3月刊・『下関市史資料編Ⅳ』平成8年3月刊・『下関市史資料編Ⅴ』平成11年3月刊・『下関市史資料編Ⅵ』平成13年3月刊 いずれも下関市発行
『地域文化研究18』「萩天樹院旧蔵毛利秀元書状について」2003.3刊、『地域文化研究19』「長府博物館所蔵本「大内家壁書」について」2004.3刊、『地域文化研究22』「旧長府藩士口羽家の歴史と伝来文書について」2007.3刊、『地域文化研究23』「(旧萩藩町人) 白井家の来歴と伝来文書について」2008.3刊 いずれも執筆は利岡俊昭氏、発行は梅光学院大学地域文化研究所
- ※11 「新しい時代の博物館制度の在り方について」これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議 平成19年6月
- ※12 『椿惣一先生資料目録 郷土資料目録7』下関市教育委員会 昭和47年10月発行
- ※13 平成21(2009)年11月9日(月)～11月20日(金)(佐賀会場)

(なかむら むつみ)

下関文書館刊 郷土資料目録 目次

巻号 年出 ・ 月版	目 次	頁
1	毛利家文書	1
	社寺	1
S	伝記	3
42	藩政文書	6
・	総記	6
9	法度	12
刊	在家	14
	土地税制	14
	教育	15
	藩外関係	16
	救恤	18
	犯罪	18
	産業貿易	19
	諸件	19
	毛利私家	20
	家譜	20
	日記	20
	家族	20
	会計	23
	諸件	26
	明治維新	26
	禁門の変	26
	攘夷戦	28
	藩論統一	31
	四境戦	34
	戊辰戦・版籍奉還・脱隊兵・賞典金録	38
	豊浦県文書	43
	古地図軸物	45
	諸家文書	50
	文芸	51
	諸件	55

吉田村資料	55
乃木文庫	57
伝記	57
遺言による寄贈図書	63
下関市及其近郊関係資料	76
総記	76
哲学	79
歴史	80
伝記	88
地誌	93
社会科学	96
自然科学	102
工学	103
産業	103
芸術	105
文学	107
山口県一般関係資料	110
総記	110
哲学	114
歴史	115
伝記	123
地誌	135
社会科学	138
自然科学	143
工学	145
産業	145
芸術	147
語学	148
文学	148
特殊資料（地図、軸物、篇額その他）	151
下関市及其近郊関係	151
山口県一般関係	153
乃木文庫関係	154
参考	155

2	序文	
	笹尾家文書	1
S	1 地下文書（存内・小村・新村・郡県）	3
44	2 土地と諸税	5
・	3 行政諸面（信仰・山林・交通・産業・兵事・伝染病・厚生・其他）	13
3	4 家と世帯	20
刊	5 書簡	35
	6 其他	39
	7 図書－古刊本	40
	阪本家文書	43
	1 総記・皇室・神仏	45
	2 清末毛利家関係文書	49
	3 阪本家文書	54
	4 行政・統計・土木	58
	5 地誌・道中・地絵図	61
	6 兵戦・紛乱	64
	7 詩文・歌・俳・俗謡	66
	8 教科書・古刊本	74
	9 一枚保存 ①地絵図 ②由来書と縁起書 ③諸行事戦争絵図 ④番附 ⑤記録もの ⑥先人遺墨 ⑦諸沙汰（主として太政官）	77
	松本家文書	87
	1 総記 辞書	88
	2 経書	88
	3 論策	89
	4 史書	90
	5 詩文	92
	6 教科書及其前後	93
	7 地誌	95
	8 芸術	95
	9 医学・医療	96
	毛利家文書之二	96
	1 藩政文書	98
	2 明治維新	99
	禁門之変 攘夷戦 藩論統一 四境戦 戊辰戦 版籍奉還 脱隊騒動 賞典金録 其後県政迄	

	3 毛利私家	104
	家事・経理	
	4 清末毛利家関係文書	111
	5 関係民間史料	112
	①集童場関係 ②友田小助流刑生活	
	③興膳五六兄昌藏之敵討顛末 ④其他	
	諸家文書	
	1 油谷文書（油谷敬一氏寄贈）	118
	2 溝口文書（溝口陽介氏寄託）	118
	3 江村文書（江村房次郎氏寄贈）	119
	4 梅里文書（梅里義秀氏遺贈）	120
	5 佐々野文書（佐々野延雄氏寄贈）	121
	6 株式会社下関米取引所史料（同所寄贈）	124
	7 布野文書（布野ヨシ子氏寄贈）	126
	8 匿名氏壺号氏寄贈（匿名氏寄贈）	128
	9 匿名氏式号氏寄贈（匿名氏寄贈）	129
	10 蔵田家史料（蔵田勝氏寄贈）	130
3	序文	
	佐甲家文書	
S	○ 佐甲家の系譜と文書について	1
45	○ 佐甲家系図写	3
・	① 中世より近世までの史料	12
2	② 明治史料	16
刊	山田家文書	
	○ 山田家文書について	19
	○ 山田家系譜	20
	A 古刊本之部	22
	① 辞書・索引	22
	② 定本	22
	③ 史書	24
	④ 詩文	26
	⑤ 明治初期本	29
	⑥ 思想・信仰	31
	⑦ 美術・趣味・其他	32
	B 古文書之部	34

	① 家記	34
	② 社会関係	35
	③ 財産移動	38
	④ 財産管理	40
	⑤ 其他	43
	黒河家文書	
	○ 黒河家文書について	45
	○ 黒河家系譜	46
	① 清末毛利家関係文書	49
	② 黒河家文書	54
	③ 諸技免許状巻	60
	④ 明治文書	66
	⑤ 蔵書	70
	⑥ 一枚保存	75
	⑦ その他	78
	下田家文書	
	○ 庄屋下田（前市村）家統略譜	81
	○ 下田家文書 付庄屋職について	83
	① 御仕成・任免・御沙汰・賞罰・救恤	85
	② 名寄・下札・土貢・米銀収納	91
	③ 庄屋存内御算用一枚	98
	④ 諸請取（未進且納米・小物成・諸利米・諸運上・新中間米等）	107
	⑤ 諸請取（御馳走米銀・冥加御用米銀・功山寺米・社寺入目押等）・ 郡夫・煙役割符	120
	⑥ 難船・破船・其他	134
	⑦ 戸村長役場・村協議会	138
	⑧ 明治税務	146
	⑨ 私家記録・其他	148
	諸家文書	151
	後跋	157
4	序文	
	原田家文書	
S	○ 原田家と原田政佳について	1
45	○ 原田政佳文書の取扱いについて	3
・	○ 原田家文書	4

9 刊	○ 日記	78	
	○ 俳箋資料について	81	
	多賀家文書		
	○ 多賀直常文書について	91	
	○ (宇多天皇後裔 源氏) 八道村多賀家ノ始祖 (系図抜)	92	
	○ 多賀直常系列 (系図抜)	93	
	○ 多賀直常文書目録付略読	95	
	島田家文書		
	① 総史 (史稿・ノート・諸会・行事・諸施設等)	103	
	② 人物史・人物評	109	
	③ 家史・家評	121	
	④ 地史・地誌	123	
	⑤ 事件史	126	
	⑥ 社寺・信仰	128	
⑦ 文化財	130		
⑧ 諸項	133		
○ 後跋	138		
諸家文書	139		
後跋	143		
5 S 46 ・ 6 刊	○ 序文	下関市教育委員会	1
	○ 旦山長見曙介と書道観 (転載)	(新撰風土記日本芸術大観)	
	○ 目録		
	○ 辞書・全書		3
	1 東洋哲学		9
	2 詩文 (総記・漢詩・本朝詩・和漢文章)		10
	3 諸書		16
	4 書道		19
	①総記 (定刊・全集・書史・書学・墨場必携等)		19
	②字体 (かな・千字文・硬筆等)		22
	③書跡 (法帖・碑文・臨本・拓本等)		24
	④研究 (書法・指導・臨書・運筆等)		35
	⑤文房具 (硯・筆・墨・硯屏・水具・筆具等)		40
	5 其他 (ノート・新聞・切抜帖・浄琉璃本等)		42
	6 教科書 (寺子屋本・塾本・小学校・中等学校本等)		46
	○ 旦山長見曙介の生涯	同窓後生 堀 哲三郎	51

6	○ 荻山家とその史料について	1
	○ 荻山家系譜抄	3
S	○ 荻山家文書目録	8
46	1 長府毛利家関係文書	8
・	2 長府藩政文書の一（政務座関係）	8
10	3 同の二（藩地外関係）	16
	4 同の三（藩地城下関係）	20
	5 同の四（藩地郡方関係）	29
	6 荻山家書	55
	7 明治以降文書	68
	8 和漢書	74
	9 其他	76
	○ 村田峰次郎宛書簡目録について	77
	○ 村田峰次郎宛書簡目録	78
	○ 諸家文書について	95
	○ 諸家文書	95
7	序	
	椿先生資料菴誌	3
S	日記	13
47	記録	
・	① 師範学校卒業まで	17
10	② 吉敷郡期	19
	③ 豊浦小学校時代	31
	④ 盲啞学校時代	118
	⑤ 長府博物館時代	169
	手紙・写真・其の他	207
8	序文	
S	内日文書	1
48	荻山家文書	24
・	諸家文書（一）	28
3	諸家文書（二）	35
刊	特殊資料	38
9	序文	
	宿請証文	1
S	往來手形	8

49	御請状・船往来願・船往来手形	12
・	寺請証文	17
3	諸払往復文書其他	22
刊	この他に、断片的な記録にとどまる資料としてあるだけで、本書に収録できないものに次のものがある。	
	○ 木材丁数計算書上げ 中仙道・木曾街道木材計算 139	
	○ 人夫賃銀定払書上げ 銭算用の前 99	
	○ 郡郷米大算用名寄 100	
	○ 米算用小者名寄 木曾関係かも 伐仙の個人給米かも 193	
	○ 其他 31	
10	「堀先生文庫」目録	
	寺子屋・明治初期教科書	1
S	適々齋塾	1
54	豊浦小学校百年史関係	2
・	豊浦小学校	4
3	学校関係資料	5
刊	河口校長原稿	8
	自衛隊関係	9
	吉田松陰関係	10
	高杉晋作関係	14
	乃木希典	18
	桂彌一関係資料	21
	原田政佳関係資料	23
	人物関係	24
	長府関係人物誌	25
	諸隊	28
	明治維新	29
	明治初年行政機構	31
	吉田関係	31
	清末藩資料	33
	菊川町関係	35
	尊攘堂・長府博物館	37
	下関・長府図書館関係	46
	下関市文化財関係	47
	下関市及其の近郊資料	52

	県内諸資料	61
	県外資料	68
	明治百年長府地区行事等	73
	長府年表	74
	長府資料	74
	文書及資料の整理関係	75
	新聞切抜き	75
	雑	77
11	〈目次なし〉「古医書目録」 序に寄贈者あり 1～294	
	植村精吾氏 (509冊)	
S	三原泰吉氏 (229冊)	
60	桂長次郎氏 (1冊)	
・	松岡氏 (10冊)	
3	内田要介氏 (3冊)	
刊	文部省 (1冊)	
12	絵図・地図目次	
	1 原始・古代・中世の遺跡研究図	1
H	2 神社・仏閣関係絵図	4
12	3 大内古図	8
・	藩政時代	
3	4 防長両国・豊浦郡(豊浦郡・西豊浦・東豊浦)絵図	8
刊	5 城下町絵図	11
	6 知行地絵図(山内九郎兵衛領地)	15
	7 村落絵図(主として、地下上申関係絵図)	16
	8 道筋図・川筋図・境目・論地・関係絵図等	23
	9 海防・攘夷・四境戦等関係絵図	26
	10 藩政諸施設絵図	31
	11 城郭関係絵図(各地の城郭図を含)	39
	12 支藩・郡・宰判図(明治初年の図を含)	40
	13 山口県地図	42
	明治以降	
	14 豊浦郡及び県内郡関係地図	44
	15 長府地区 教育・行政関係	46
	16 下関行政関係図	51
	17 住宅地図	58

	18 国土地理院地形図 外河川図・地質図・魚礁図・岩砦等	59
	19 長府地区・観光図	62
	20 下関地区・観光図	64
	21 明治の建築	67
	22 明治以降の諸件地図	69
	23 日本地図・鉄道図・観光図（各地の古地図を含）	70
	24 世界地図	78
13	野々村家文書	1
	〔1〕 野々村家資料	3
H	〔2〕 野々村家資料中にある井上（時田）家の文書	6
16	〔3〕 野々村ぬいを妻とした粟屋平一に係わる資料	8
・	有川家文書	15
11	〔1〕 初代・有川乃右衛門	17
刊	〔2〕 二代・有川九郎兵衛	17
	〔3〕 三代・有川谷三郎、後に乃右衛門と改め	19
	〔4〕 四代・有川一作	22
	〔5〕 結城香崖（有川一作の父）関係	25
	富岡家文書	27
	〔1〕 富岡家に係わる記録	29
	〔2〕 三代・富岡幸太郎（清烈）	29
	〔3〕 四代・富岡七郎左衛門（清治）	30
	〔4〕 五代・富岡七左衛門（清重）	32
	〔5〕 六代・富岡与一右衛門（清民）	32
	〔6〕 七代・富岡八蔵、七郎左衛門（清軌）	33
	亀田家文書	41
	〔1〕 庄屋一般文書	43
	〔2〕 庄屋引継（渡証文、請取証文）、一紙返合之事	45
	〔3〕 海難記録	47
	〔4〕 明治期文書	49
	阪本家文書	51
	〔1〕 阪本謙蔵 清末藩辞令・褒状等（嘉永三年～明治四年）	54
	〔2〕 幕末諸戦争記録、兵書その他	60
	〔3〕 明治初期の文書	62
	〔4〕 清末領内神社調	65
	〔5〕 地図・絵図類	68

(6) 阪本協（謙蔵改名）、郡長（玖珂、熊毛、吉敷）期	69
(7) 阪本協、退職後	76
(8) 阪本協・日記（明治八年～大正七年）	78
(9) 阪本家資料	80
(10) 雑書等	81
(11) 阪本家・襖の下張よりの文書	82
毛利家文書	83
細川家文書	88
井上家文書	92
豊永家文書	97
長岡家文書	99
軸物、扁額、巻物、その他	102
(1) 毛利家（縁故者を含む）	103
(2) 書画（版画を含む）	104
(3) 維新関係	111
(4) 乃木希典	113
(5) 拓本	114
(6) 教育	115

Sは昭和

Hは平成

2009（平成21）年12月末 現在

『地域文化研究』第二四号（二〇〇九・三）	
第24回大会報告	
2008年度 例会レポート	倉本 昭
【資料翻刻】	
徳山毛利家文庫異国船漂着3	中村 睦美
朝鮮船漂着記 享保十年	
【第13回博物館企画展・ミュージアムトーク】	
遺跡のことなど	吉岡 一生
高野遺跡における古墳時代後期の土器様相	小林 善也